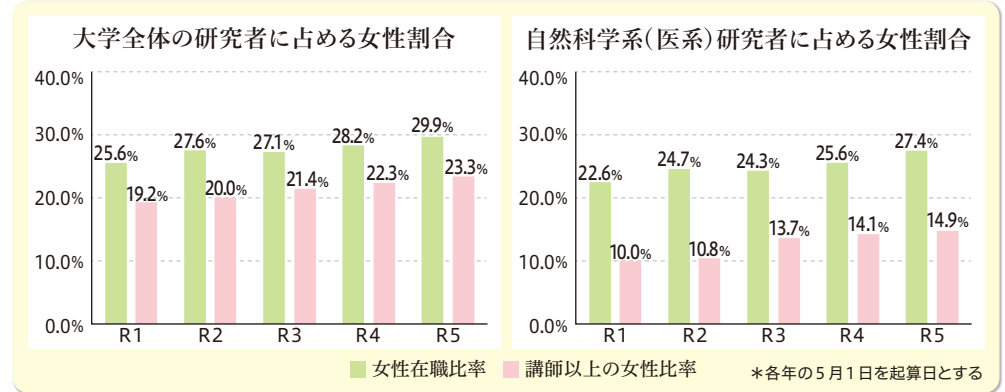


久留米大学病院 野村 政壽 病院長

多様性 公平性 包摂性を大切に  
人と地球にやさしい  
生命を慈しむ医療を実践  
地域と共に明日の医療を創造

## KG-PROJECTの目標と現状 Goal and present state



R7年度の自然科学系(医系)研究者に占める女性割合の目標は、女性在职比率30%、講師以上の女性比率15.2%です。国の目標は、指導的地位に占める女性割合を30%程度にすることです。

## 第5回 DI Day (9月21日開催) Report

第1部は、内村助成金採択者7名の研究発表が行われました。座長は、看護学科の嵯峨堅教授、医学部内科学講座(内分泌代謝内科部門)の蓮澤奈央講師が務めました。

第2部は、宮崎大学の伊達紫理事補佐・教授に「ダイバーシティの醸成と女性リーダー育成に向けた取り組み」をテーマにお話いただきました。座長は医学部免疫学講座の溝口恵美子教授が務めました。ご講演の詳細はDI推進室ホームページで公開しています。



宮崎大学  
伊達紫 理事補佐・教授  
だてゆかり



免疫学講座  
溝口 恵美子教授

最後に令和4年度内村助成金チャレンジ枠発表者4名の中から、医学研究科の永石美晴さんが優秀賞に選ばれました。

会後のアンケートでは、第1部の感想として「どなたの研究内容も素晴らしく、レベルが高いと感じました」、第2部の感想として「伊達先生ご自身が達成できなかった“課題”を共有して下さったことが大変学びになりました」「女子高生のためのサイエンス講座の実施成果が面白かったです」などのご意見を頂戴しました。



優秀賞に選ばれた永石美晴さん(右)

## 女性研究者紹介 Focus



篠崎 勝美 助教  
(歯科口腔医療センター)

令和4年度内村助成金チャレンジ枠採択者を紹介します。

福岡歯科大卒、久留米大学医学部歯科口腔医療センターに臨床研修を経て入局。診療とともに「顎変形症手術とその術後影響に関する研究」にも携わっています。現在、3歳になる子供がおり、周囲のご協力やご理解のもと、“家庭と仕事の両立”を日々模索しています。両立の難しさに焦ることもありますが、そんな時は松下幸之助の「どんなに悔いても過去は変わらない。どれほど心配したところで未来もどうなるものでもない。いま、現在に最善を尽くすことである」を思い出し鼓舞されています。

楽しみは読書と食べ歩き(食事とお酒)です。



## 研究者によるリレー・コラム ⑦ Column

外科学講座 藤吉 健司助教 からのご紹介  
放射線医学講座 宮田 裕作 助教

研究・学問には職業人としての謙虚さが重要だと常々思う。新たな研究アイデアを絞り出そうと悩み苦しんだ末に一筋の光が見えると、一心不乱に研究にのめり込む。それは非常に大事で必要なことだ。しかしあまりに夢中になりエゴイズムに走ると、芥川龍之介の『蜘蛛の糸』に出てくる陀庵多になるかもしれない。果たして自分はプロとして仕事が出来ているだろうか？家庭内でも同様である。アイデアは自分一人で生み出したものでも、研究は自分一人では出来ない。研究には感謝と謙虚さが必要である、と言いつつ自分はのだろうか…。

